

姫路短大 ○土井千鶴子 愛知学泉女子短大 倉橋久子
 愛知淑徳短大 土田正子

目的 被服行動とパーソナリティ特性との関連性については、これまでの研究によっていくつかの興味ある結果が得られている。本研究では、性格特性（向性、情緒安定性、論理性、活動性、慎重性）と被服行動との関係を女子学生を対象に調査し、検討した。

方法 被服行動は、ファッション情報関心度（10項目）、流行被服の採用時期、服装への気配り（10項目）、外出着の購入店舗（8項目）、外出着の購入基準（15項目）、外出着の好み（20項目）、被服の洗濯、手入れ（10項目）、被服の廃棄理由、被服の廃棄方法（8項目）の合計81項目を用いて測定した。性格特性は若林によって作成されたもので5性格尺度からなる合計56アイテムを用いて測定した。各対象者の56アイテムへの反応得点を各性格尺度別に合計し、対象者を高、中、低の3グループに分割した。また、被服行動についても各下位尺度別にその得点に従って対象者を3分割し、性格特性との関連性を分析した。なお、この調査は女子学生400名を対象に、平成4年10月に行った。

結果 外向性および活動性の高いグループは、低いグループに比べてファッション関心度が高く、流行被服の採用時期も早い。また、服装によく気を配り、外出着の購入店舗も百貨店の有名ブランド売り場や専門店が多く、被服の購入基準は、ブランド品、変化が楽しめる、信頼できる店と回答している。外出着としては、個性的、ファッションナブル、原色、ブランド志向の強い、大胆な服装を好む傾向のあることがわかった。一方、慎重性の高いグループは、低いグループに比べて被服の洗濯や手入れの方法が適切であった。以上の性格特性については、いくつかの被服行動との関係を明らかにすることができた。